

ヘルパー奮闘記

認知症訪問介護

ヘルパーN



4 突然のお別れ

その日はヘルパーがお父さんのデイサービスの送り出しのために訪問する日でした。朝訪問すると、床に仰向けに倒れるお父さんを発見しました。息をしません。その時対応したヘルパーは慌てて娘さんにお伝えすると、娘さんが救急車を呼ばれ、そのあとお亡くなりになってしまいました。

ある日のデイサービスの送り出しの時、バルーンカテーテル（尿を抜くため尿道につないだ管）を抜去してしまい、血まみれになっていたこと数回。力なく杖を振り回しヘルパーをたたく（力が無いので痛くはありません）男性ヘルパーを悪の集団のリーダーと言っていたこともあり。とにかく、時間の無いなかでバタバタと介護していた思い出しかありません。

何かもっとできることがあったのでは無いか…と亡くなってからしばらく呆然としていました。

しばらく入院していたお母さんが退院となり、ケア会議が開かれることとなりました。お母さんの様子は入院前と全く変わってしまっていて、お父さんの亡くなったことも判らなくなっておられ、立って歩けなくなっていました。

ケアマネジャー、訪問介護、訪問看護、市の介護保険担当者 10名ほどの会議の場で、娘さんは「お母さんの怪我は私が階段から突き落としたのよ」と悪びれることなく笑いながら話していました。

「もっとひどいこともしてるけどね」と…会議の場で言うのだから、その時の会議の現場は凍り付きました。ご本人は悪いことをしている意識はないように思いました。

そんな娘さんですが、お母さんを家に連れて帰って「自分が面倒を見る。」と…入所も勧められたのですが、「家に連れて帰りたい。」と…懇願されました。

娘さんは、入院中のお母さんの元に毎日お見舞いに行っていたといいます。

ケア会議の結果、娘さんのお母さんを思う気持ちを考慮し、訪問介護を毎日受ける条件で家に帰ってもらうこととなりました。



5 心ある介護

ほとんど寝たきりのような身体になってしまったお母さんの介護。介護用ベッド、車椅子必須。この搬入を娘さんが拒否されました。母の寝室は2階の4畳半の洋間。セミダブルベッドが部屋の半分を占めます。「狭いその部屋での介護は無理です。」と説明し、1階の広いリビングにベッドを置くことを勧めましたが、拒否されました。そこでなんとか1階でとお願いしました。するとリビングのソファなら寝ても良いとのことで、ソファがお母さんのベッドの代わりになりました。

お母さんは意外に体重も重く、大柄な方なので、女性一人で移乗は無理があります。リフトなどの利用を娘さんをお願いしましたがこちらも断固拒否され、女性2人での支援でオムツ交換、移乗介護となりました。

娘さんのルールでは、「日中は座っていてほしい」という思いがありました。朝のオムツ交換、更衣の後にはリビングのダイニングのイスに座ってもらって帰るようになりました。

「お昼ご飯のあとは寝かせてあげてくださいね」と言って帰りますが後は娘さん任せです。私たちは不安な気持ちで帰ることになりました。

お母さんの食事は、オムツ交換、更衣の訪問介護の支援の後に娘が担っていました。しばらくは、判らなかつたのですが、嚥下機能（のみこみ）も悪くなっているお母さんの朝食に健常者の食べるトーストと目玉焼きなどという朝食を準備し、パンを口いっぱい詰めておられたのです。お昼のオムツ交換にヘルパーがお伺いするまで口の中にパンが入った状態で椅子に座っておられ、ヘルパーが慌てて掻き出し、朝食の様子がわかりました。

「この人、なかなか飲み込まないのよ！」
「おかずもこの人の好物を炊いてやったのに！！」
などとイライラとした様子で文句を言っておられました。

お母さんの好物を作って食べさせてあげよう、大好きなパン屋さんのパンをわざわざ買ってきているのに何で食べてくれないの？と言う娘さんの悲しい心の声が聞こえたような気がしました。

…裏につづく